



秋
2025

vol 171



高崎の秋模様

高崎の秋模様



イチョウ並木

秋になると音楽センター前通りから観音山丘陵へ向かうイチョウ 61 本が、鮮やかな黄色に色づく。高崎に秋の到来をつげる堂々とした佇まい。

■ 高松町



群馬音楽センター

日本のモダニズム建築形成に大きな足跡を残したアントニン・レーモンド氏によって設計された建物。昭和 36 年に高崎市民の寄付金を基にして建てられた、日本を代表する近代建築物。高崎の文化のシンボルの存在。その音楽センターの佇まいとイチョウの色付きが調和する様子はこの時期ならではの。



■ 高松町 28-2





高崎は大きな標高差がないため、市内全体で紅葉がほぼ同じ時期に見頃を迎える。日々色づきを深める紅葉により、見慣れた街並みや風景が、特別な場所に変わるこの季節。

歴史ある旧下田邸や音楽センターを彩る紅葉、洞窟観音徳明園や少林山達磨寺に広がる神秘的な風景、そして観音山や市街地を鮮やかに染めるイチョウ並木や木々の生き生きとした姿――。

秋ならではの高崎の景色に、会いに来ませんか？

高崎公園

明治9年、旧高崎城南西の頼政神社に隣接した大染寺の跡地に造られた。高崎市役所に隣接し、園内には噴水や池、幼児用の遊具などがあり、市民の憩いの場となっている。春は桜、秋はイチョウと季節を変えて訪れたいスポット。

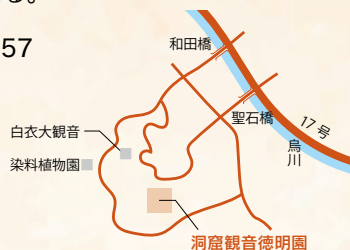
■ 宮元町 127



洞窟観音徳明園

高崎田町の豪商、山田徳蔵が私財を投じ約50年をかけて、つるはし等人力だけで山を掘抜いた「洞窟観音」。併設される回遊式日本庭園「徳明園」は、徳蔵が洞窟建設時に出た土を盛り造った日本庭園。群馬の銘石である三波石の巨石群と浅間山から貨車で運ばれた多量の溶岩や自生のアカマツや新潟のクロマツ植樹されている。四季折々の風景を楽しめるが、特に秋の紅葉シーズンには、ライトアップを行い、遠方から参拝を兼ねて多くの来園者が訪れる。

■ 石原町 2857

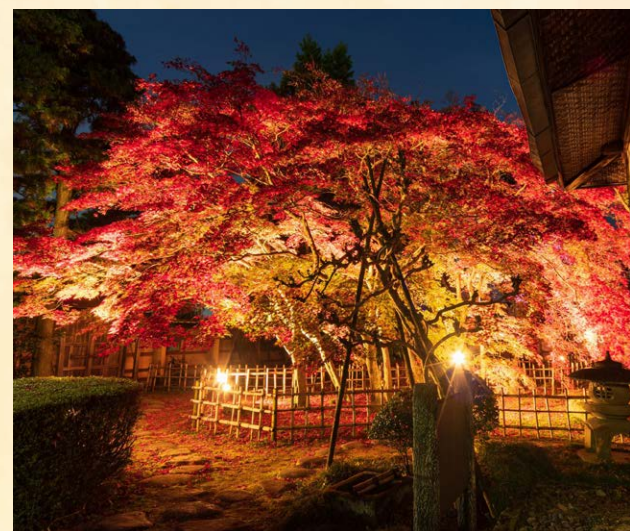




旧下田邸書院及び庭園

旧下田邸は、箕輪城主長野氏の重臣下田大膳正勝の子孫が落城後、この地に土着し、居を構えた屋敷跡。敷地内の書院と庭園は、江戸時代初期の様式を伝える数少ない文化財のひとつとして、群馬県的重要文化財に指定されている。アカマツやヤマモミジなどの樹木が植樹された庭園は、「忠臣蔵」で有名な剣豪堀部安兵衛が築造したものと言われている。鮮やかに紅葉するヤマモミジは、紅葉時期のみ夜間ライトアップが予定されている。

■ 箕郷町西明屋 702-2





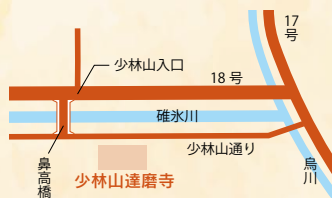
少林山達磨寺

観音山丘陵の端に位置する少林山達磨寺は黄檗宗、達磨大師の教えを受け継ぐ寺院で、縁起だるま発祥の寺として有名。天明の飢饉の後、9代目東嶽和尚が苦しい農民の副業になるようにと、開山心越禅師が描いた一筆達磨像をもとに木型を彫り張子だるまの作り方を伝授した。

境内には、古今東西各種のだるまを展示した達磨堂や、ドイツの世界的建築家ブルーノ・タウトが昭和初期に居住していた洗心亭がある。

赤いだるまと紅葉の赤が織りなす秋の情景はここならではの。

■ 鼻高町 296



ひびき橋 - 観音山

高崎を代表する観光地、観音山。白衣大観音と染料植物園を結ぶつり橋「ひびき橋」は、山全体を包む色とりどりの紅葉を楽しめるスポット。染料植物園は、染料植物や日本の染織文化の魅力を紹介する全国でもめずらしい植物園。園内には染めの原料に使われてきた代表的な植物が、たくさん植えられている。観音山周辺の高崎自然歩道を散策すれば、尾根からの景色とともに紅葉を楽しむことができる。

■ 寺尾町





■ アートプロジェクト高崎

2025年10月25日(土)～11月30日(日)
高崎駅西口周辺

今年11回目となる都市型アートイベント。高崎駅西口の中心市街地で屋外アート展示を行う。今回のテーマは、「ダイバーシティ・クロッシング: 多様なアートの交差点」。まちなかという日常の空間を、非日常的な空間に変えるような力を持つ現代アート作品を多く展示する。県内外から約26人の作家が参加。パフォーマンスも開催予定。

● お問い合わせ
高崎アートインキュベーション推進会議
TEL. 027-322-9195
<http://taka-art.jp/2025/>



■ 高崎光のページェント2025

2025年10月31日(金)～2026年3月1日(日)
点灯時間 17:00～23:00(12月中は16:00～24:00)
※光のキャンパスは2026年1月12日(祝)まで

シンフォニーロード、東二条通り、慈光通り・大手前通りでは街路樹などが 無数の光で華やかに輝き、幻想的な高崎の冬の街並みを演出する。城址公園のお堀には、色とりどりのランタンが飾られ水面に映し出す幻想的な風景となる。高崎駅西口ペデストリアンデッキには、フォトスポットとして高さ約6メートルのツリーがパワーアップして登場。恒例の子ども達が制作する「光のキャンパス」 も楽しめる。街中を周遊しながら、特別な空間をぜひお楽しみください。

● お問い合わせ
高崎光のページェント実行委員会
(一般社団法人 高崎観光協会内)
TEL. 027-330-5333
<http://www.takasaka.fh/hikari/>





■ キングオブパスタ2025

2025年11月9日(日)10:00~15:30

もてなし広場

高崎市内の飲食店が自慢のパスタの味を競う「キングオブパスタ2025」がもてなし広場で開催される。「パスタのまち高崎」を象徴するイベントで、今年で17回目。

今年は18店舗が出場し、イベント限定メニューを提供。来場者は5食セットのチケットを購入。5店で試食して気に入った1品に投票するシステム。各店の趣向を凝らしたメニューを楽しむことができる。



● お問い合わせ

キングオブパスタ実行委員会事務局

TEL. 027-323-2868

<https://www.kingofpasta.jp>



■ 高崎だるま市

2026年1月1日(祝)、2日(金)

高崎駅西口駅前通り

日本で一番早いだるま市。

高崎だるま(R)の販売ブースの他、高崎のうんまいものが集まる開運たかさき食堂のブースなどが出店。焼きまんじゅうやもつ煮など市内の人気店の味が楽しめる。縁起の良い年初め、ぜひ高崎だるま市へお越しください。

● お問い合わせ

だるま市実行委員会

(一般社団法人 高崎観光協会内)

TEL. 027-330-5333

<http://takasaki-darumaichi.com>





季節の移ろいとともにつくれる生菓子。その種類は年間で150を超える。

いつの時代もみんなに愛された甘い味。
高崎の老舗菓子店をご紹介します

昔も今も。高崎で出会える

洋菓子×和菓子

第5回

御菓子処 田むら

季節の風情を映す 高崎の茶道界で支持される生菓子

高砂町のノスタルジックな街並みの一角に店を構える和菓子店「御菓子処田むら」。昭和7年創業、祖父、父と続いたのれんを現在は3代目の田村隆さんが守っています。まんじゅうや団子、赤飯を扱う菓子店として開業し、現在は茶席の菓子、主菓子専門の店です。

田村さんが家業を継ぐと決めたのは、学生時代を過ごした京都で。「バイト先の先輩に実家の仕事を聞かれ、和菓子店だと答えたら、素晴らしい仕事だから継ぐべきだと言われたのがきっかけです。京都では、本場の生菓子を色々と食べ歩きしましたね」その後、菓子作りを本格的に学ぶため専門学校へ進学。そこで「生菓子」の魅力に触れ、卒業後は、東京に京風菓子を紹介し、各界から厚い信頼を受ける名店「赤坂塩野」にて腕を磨きました。「とても厳しかった」という修行を経て昭和61年に高崎に帰郷しました。

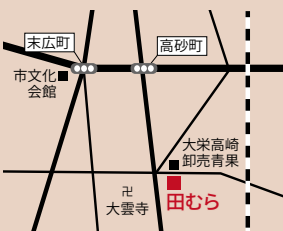
一筋に作り続けてきたその生菓子は、上品な甘さと口当たりで、「見た目が大切」という通り美しく、高崎の茶道界で、長らく愛され支持されています。お茶会や茶教室、30年以上付き合っている高校茶道部もあるのだとか。「高校の茶道部の生徒さんは、お菓子を楽しみに入部した子もいますからね。季節に合わせて毎回違うものを



届けようという励みにしています」。部費を考慮し良心的な価格で菓子を提供、菓子にはその由来をプリントで添える工夫をするなど、茶道部の活動を支えています。

「材料はシンプルに、上質なものを、修行時代から変わらず大切にしています。1人では大変な時もありますが、生菓子作りが本当に好きだから続けているんですね。趣味のようなものだから」とこやかに答える田村さん。

季節の移ろいを閉じ込めた芸術作品とも言える生菓子。電話で少量からでも注文可能です。



【御菓子処 田むら】

- 高崎市高砂町23
- TEL 027-322-3908

自身も大日本茶道学会の教授の免状を持ち、高崎周辺の茶道に貢献している田村さん。



高崎観光協会 会報 秋号 Vol.171 令和7年 10月 1日発行

発行 一般社団法人 高崎観光協会

高崎市八島町222(高崎モントレー2階) Tel.027-330-5333

<http://www.takasaki-kankoukyoukai.or.jp>

制作 株式会社 SDI総研

AUTUMN
2025



Kankou Takasaki / PAGE. 08